



花柳春話抄録



柳田文庫
文庫11
A1312



文庫11
A/3/2

花柳春話題言

草木情無キ耶。曰ク無シ。然ラハ則多
情無比ノ溫柔郷ハ何ヲ以テ花柳ト呼フ
耶。曰ク説アリ。花ノ情無キモ。芳辰月笑フ
カ如ク。嬌然トシテ雨中ニ開クヤ。誰カ
看テ情ナシト謂フシ。柳ノ情ナキモ。嬌腰
舞フカ如ク。鳥衣然トシテ凡前ニ立ワヤ。誰

柳田泉文庫

カ着テ情ナシト謂ハシ。況ニヤ田。顛横目
曰シク人ト生レシ者ニ於テシヤ。独リ其
情痴吾徒ノ如キ者ノシナラス。大聖モ亦
情ニ深シトス。禮運ニ云ハスヤ。人情ハ聖
王ノ由也ト。情無ケレハ。聖人モ亦食ハズ
シテ死セシ歟。聖王既ニ多情。痴固ヨリ多
情。然ラハ則地球上一切情界ノ三固陋

學士或ハ云フ。泰西諸國ハ人々実益ヲ
謀リ。実利ヲ説キ。敢テ凡庸情痴ノ事ヲ
尙ハスト。是レ極メテ妄誕。余曾テ航遊
一年。親シク看破シ来ルニ。彼我ノ情相
契ス。毫毛モ差異ナキナリ。頃日友人六
石子。荅柳春話若干卷ヲ寄セ。余
ニ一言ヲ題セシム。披テ之ヲ閲スレハ。英

人字度倫ノ原著ニシテ。羽丹純一氏カ
訳スル所ノ情史ナリ。余瀏覽見數日。甚
々樂メリ。定メテ知ル。歎。刷。功。竣。ル。日。
江湖ノ情痴者流。必ス其業ヲ倒シテ以
テ争ヒ購ハシヨ。而シテ彼ノ固陋。學士ハ
猶必ス言ハントス。情史世ニ於テ果シ
テ何ノ用ヲ為スヤ。適マ以テ誘淫啓蕩

ノ具トナル而已ト。噫。吾徒ノ情人。以ノ情
界ニ生レテ。以テ情史ヲ讀ム。是亦造物主
ノ賜ナリ。人豈花柳ニ如カザル可ケンヤ。世
上ノ才子以テ如何ト為スカ。試ニニ卷首
ニ書シテ以テ所見ス。

人豈草木
ト云ニカラシ
ヤ。花柳亦情
有ルカ如シ。

明治十一年春日 柳北仙史弘識於隱
工柳暗花明書屋



獵夫亦能憐窮鳥。世人休疑李
下冠。一死能可投飢虎。萬世且耻匹
夫勇。前世因緣何足歎。春而催花又
妬花。一心無私真男兒。似田容履亦

何妨。人間百事屬悲歡。蹤在樂土亦
危域。曉鶯呼夢。花嗽露。晚靄罩綠柳。
梳風。人間埋骨。谷難埋。事項須判理。
與情。

人間百事易取敗。自有雲雨花
有風。一重一輕元難定。死別生別兩
闌情。暮風昨夜城頭起。吹折海棠花
一枝。蝴蝶仙遊總一夢。春困花落鳥

空歸。
託子須託賢良子。委身須委有
情人。
功谷深鎖人無識。綠樹白雲掩
衡門。
人間憂樂生於意。泣涕對花不
是蒼。

人情輕薄甚於紙。昨日良友今
日仇。
秋鴈遺思出鄉國。春潮惹憂人
江南。
金釵堅足表妾意。紅袖長惹男
兒心。
嘗出函谷為花鳴。人生浮世因

情憂。
暴風自折連理枝。無復比翼鳥。
來宿。
百花鬢娟被風碎。孤柘魚老立。
雪深。
骨夢醒來始如夢。人情經去更。
思情。

日暮孤舟何處去。江上遙送棹。
歌聲。
貪功名。勿損一命。一命存自得。
功名。
千嶽亦壞自蟻穴。萬事尽域於。
一心。
書則室也。學則價也。不投價而。

欲得室猶不種而待登。
昨夜春雨寒復回。櫻巷飲旋終
不聞。
脫耒細細寸分隙。欲飲大洋萬
里浪。
弊衣歸家君休笑。心中錦繡不
耻人。

梅影上窓春初動。鶯聲迴舌凡
猶寒。
天下百事常與廢。人間一生幾
淳沉。
晚風捲雲驟雨過。遠雷隨電一
聲來。
猛獸以力猶可服。惡漢以智遂

難制。不入虎穴不獲虎。不耐危窮難
除憂。文化能懷萬邦。容富強長。自大
平春。欲知世態。猶欲知好色。必自行
之。而後始得窮其理。

孤心不慣。歌吹地。去訪水雲山
霽村。人生如世。無尊於為真男兒。
何恨冰霜殺木葉。更有陽氣復
地中。百卷閑落任風雨。人世悲歡總
因緣。

唯有孤心告旧情。更無大志逐
逸慾。
一日逢君，不識十年紅淚為
兩淚。
一別何得期再會。蒼有風雨人
有病。
一身采厚守任時勢。萬緒怨言閑

俗情。
窮極小才驚俗眼。情切愚計動
人心。
殘雪猶埋返魂草。東風未回
春梅。
花艷鮮明人目眩。鴛聲田滑鐵
腸傷。

美人為美多薄命。才子有才少
全身。莫恨春花早。辭樹有復新。實更
滿枝。一笑呈嬌傾。知國雙眼凝。思
人腸。經過人事年易老。嘗來世味感

情多。

誰謂富貴元在天。請見人事常
成德。

共是春霄無比物。一痕新月一
梨花。

同氣相求。是天理。梅巷香飛春
鳥來。

有情人寄無名書。難堪事成難
成日。咫尺文章能含毒。欲絕真情幾
似深。榮枯得失所招人。富貴生死是
天命。在天願作比翼鳥。在地願作連
理枝。

無情蔽月昨夜雨。狼藉落蒼苔。今
朝風。鴛鴦失匹秋水冷。連理枝。既孤
木。函。人世榮枯猶凡物。花開花落春
自去。

為君生又為君死。妾身元來委
君身。
千金難奪義士意。一書能和寸
子情。
一合一離何足歎。十月小春蒼
復開。
草木凋零霜氣冷。鴻雁帶愁去

海南。
天道循環似車轉。寸子亦能過
思人。
人間百事塞翁馬。昨日憂愁今
日歡。
萍水相逢異鄉天。琴瑟和諧故
園春。

一封書解老夫憂。十年苦結合
歡喜。

浪寒英水三十里。雪高佛山五
千丈。

朝曦已昇。辭巴里。夕陽未沒。到
鼃動。

人間百事如西復掌。昨日憂愁今

日歡。

人間悲歡。故一盞。江湖得失在
寸籌。

錦城凡光未過年。故園春色已
十分。

千里交情半箋字。一片冰心數
行唇。

蝶夢酣綺窓雨。雙燕翅輕午。
簾風。花歷膏雨。爛熳開人。歷悲歎歡
樂生。
一壺美酒。五六客。年夕佳宴三
世緣。
鴛鴦對浴。太平水。鳳凰雙飛自

在天。

地中海頭第一國。前帶大水後大山。
與國以未百王起。征定北狄平南蠻。
功成兵強國亦富。獨立南面臨人寰。
異域慕風齊貢物。萬船來泊是此灣。
玉殿笙簧雲鸞鳳舞。瑤池草霞魚鼈遊。
階上美人奏仙樂。階下勇士奉良謀。
中外政善民悅服。千年不知內外憂。

自古治世無如是。盛名長留五大州。

佳人ベニダドア、マルワラバリスニ贈ルノ書

世人ハ妾ノ痴情ヲ輕侮スヘシト云ク君ニ
於テハ決シテ然ラス蓋シ人情ノ絶ワバカラサ
ルモ義ノ為メニ絶ワヲ知レハナリ世間徒ラニ
富貴ヲ求メテ人情ニ悖ルモノハ妾ヲ視テ
或ハ曰ハシ彼レ身ニ錦繡ヲ纏ヒ體ニ珠玉

ヲ鑄メ奢俊ヲ極ムレハ猶ホ平生喜フ所ナキ
ニ似タリ何ソ不滿ノ甚シキヤト然レハ是レ
通常一般ノ言ニシテ真ハ人情ヲ解スルモノ
ニアラザルナリ揮モ心ノ欲スル処ハ堪ハ難シト
虽モ能ク之ニ堪ユ欲セサル処ハ堪ユヘシト
虽モ義ナクシハ堪フル能ハス有情ノ愚夫
ニ嫁スルモ無情ノ天子ニ侍スルニ勝ラシ是

レ情ノ奪フ可カラサル所以ナリ曾テ君ト袂
ヲ分テヨリ已ニ歲月ヲ閱スレハ君ノ名声四
方ニ聞、到ル処君ヲ語ラザルナシ妾之ヲ
聞ヒテ恰モ君ノ傍ニ談話スルガ如キノ思ヒ
アリ是レ乃チ妾ノ君ヲ忘ル、能ハザル所以
ナリ今ヤ妾夫ニ従テ英ニ来リ偶然君ニ逢
ニ邂逅ニ延ヒテ共ニ交遊談話スルト也

ニ數日君ノ情稍前自ノ如クナラザルヲ知シリ
妾敢テ情ヲ貫徹セシメント欲シ為メニ身
ヲ過ツモ亦知ルヘカラサリレニエ天猶木未
タ妾ヲ捨テサルカ良心忽チ明カニレテ終
ニ過失ナカラシメタリ今ヨリ家ニ皈ラハ情
ヲ絶チ義ヲ重シシ倍一勉勵シテ夫ニは
ハ君ト再会スルノ日ニ及ニ頃ハ妾誓言テ

公道ヲ誤ラザル一箇ノ良夫トナリ君ヲシテ
曾日テ妾ニ養育恋セシヲ耻ワルナカラレトシト
ス別ニ臨ニテ數行ノ紅淚硯海ニ溢ル乃
午邊トノ情ヲ陳書シ以テ贈ル時下秋冷
請フ君自西交セヨ

ベンダドア

フルワラバース君

フロレンス無名ニマルワラバースニ贈ルノ書
一婦書ヲマルワラバース君ノ足下ニトマス妾
未タ辱知ヲ辰寸フセズト虽ヒ已ニ足下ノ著
書ヲ讀ミ魂飛心迷感歎教回愛慕
ノ情止ムナキニ至リ敢テ婦女ノ身ヲ顧ミス
又敢テ醜拙ノ文ニ耻キ私カニ一書ヲ呈シ
以テ將サニ足下ニ向フ処アラントス足下幸

ニ勞ヲ吝フスシテ一読ヲ賜ヒ萬一ニ妾ノ意
ヲ採ルアランコトヲ希望ス妾ノ淺智ヲ以テ足
下ヲ觀ルニ足下富豪ノ家ニ生レ經濟手
ヲ保テ百書ニ涉リ而シテ徒ラニ函居シテ
堆書塵埃ノ裡ニ身ヲ屈シ爲スアル可キ
ノ才ヲ以テ僅カニ著書筆舌ノ間ニ費ス
ハ膏ニ粟ノ下ナルノミナラス拂モ亦上帝ノ

意ニ違及スルモノト謂フベシ足下ノ才詩
人トナワテ終ル能ハサレハ速ニ大志ヲ立テ
功ヲ天下ニ與キケルヲ衆庶平安ノ策ヲ立
テヨ妾一婦人ナリト虽モ既ニ足下ノ書ヲ
讀ニテ思慕百端遠隔ノ地ニアリト虽モ
心ハ即チ足下ノ側ラニ在リ朝暮勉メテ
足下ノ大志ヲ遂クルアランコトヲ説ニトスルニ

然レハ妾未タ曾テ足下ヲ見ス而シテ又
見ルヲ願ハス蓋シ妾其人ヲ慕ハスシテ
其意ヲ恋フノ意ナレハナリ足下恐クハ
思ハシ妾婦人ノ身ヲ以テ決ノ如ク足下ニ
信情ヲ通ス亦故アルナカラニヤト然レ
ハ妾ノ富貴足下ニ比スレハ十倍ニ春
秋尚ホ富ニ容色モ亦常人ニ耻キス然

レハ富貴貧賤ハ俗人ノ愛憎スル所ニメ
妾ノ意トスル所ニアラス妾未タ曾テ富
貴ヲ喜ンテ一日モ足下ヲ忘ル、
アラス
サレナリ豈ニ他ノ事故
アワテ以テ書ヲ
足下ニ呈スルモノナラニヤ願クハ足下
妾ノ真情ヲ愛憐シ
断然大志ヲ立
テ切テ天下ニ名ヲゲヨ
妾ノ幸ヒ之レヨリ

大ナルナシ妻復々書ヨ呈スルノ時ア
ルヘシト虽モ敢テ妻ノ何人タルヲ告
ゲサルノミナラス生涯足下ヲ見ルヲ
願ハス江涙ヲ行頓首

某月某日

マルツラバース君

ベニダドアマ、マルツラバース、アリスノ結婚ヲ聞テ

贈ルノ書

書ヲマルツラバース君ノ足下ニ呈ス妻英國ニ於
テ君ニ邂逅セシヨリ指ヲ屈スレハ已ニ六年ヲ
経而シテ君ノ容兒言話恍トシテ猶目撃ノ
尚ニアリ是レヤニ君ノ古人高踏ノ遺凡アル
ヲ慕フテ而レテ然ルニ非ラガラニヤ妻聞ク君

嘗テ某レノ女ト偕光ヲ約シ猶木未タ果タサ
スシテ賊災ノ為メニ生別スルテ十年頃日
偶然其女ニ邂逅シ合歡ノ期也ニ近キニア
リト妾之ヲ聞テ思ハテリ君ハ天下ノ秀才
子必ス一佳耦ナカラザルマカラス而シテ今マ
君其女ニ邂逅ス且ツ其女ハ貞操清淑
曾テ婦道ヲ誤ラス十年ノ永キヲ自守

シテ再会ノ期ヲ待ツモノハ是レ之ヲ郎婦
ト謂ハスシテ何ヲカ云ハシ蓋シ上天其貞
節ヲ愍シ君ヲメ他人ヲ娶ラシメス遂ニ
君ニ再会セシメタルモノナリ君ノ秀才ニ
シテ又郎婦ヲ娶ル是レ天下ノ良耦誰シ
カ之ヲ慶賀セザランヤ妾之ヲ聞クノ
日喜悅シテ舞ノ舞ト足ノ踏ム処ヲ知ラ

ス速カニ英國ニ到リ婿媾ノ席ニ侍シ
且ツ新婦ニ逢フテ将来ノ交誼ヲ厚ク
セニト欲スレモ妾良人ノ在ルアリテ進
退自由ナラス因テ一柬ヲ寄送シ聊カ
以テ君カ新婚ヲ賀セニト欲ス蓋シ千
里ノ外ニ隔居スト虽モ心ノ交リ毫モ
渝ラス猶且暮相逢フノ思ヒアルヲ表

スルナリ妾タリ情緒尚ホ筆紙ノ外ニ
溢ル萬々諒察スルアレヨ不盡也

ベニダドア九拜

コルツラバリス君足下

フロレズ無名ニマルツラバリスニ贈ルノ

書

妾辱し世人ノ君ヲ評スルヲ聞キ思ハテ

ク世間俗客ノ無禮ナル何ソ斯クノ如クナ
ルヤ蓋シ人生レテ世ノ汚穢ヲ被リ容
易ニ之ヲ蟬蛻フルヲ能ハス其汚穢ノ心ヲ
以テ君ノ清良ヲ視レハ却テ奇異ノ思ヲ
醸成スルニ由テ然ルモノ歟妾願クハ君ノ
一辟カヲ藉リテ此濁世ヲ一洗シ以テ倍人
無智ノ誤謬ヲ濟ハシテ欲ク不諂ニ云フ

柔能ク剛ヲ制スト今妾ノ言フ所固ヨリ採
ルニ足ラスト虽モ然ハ亦小補ナシト為サス
然レモ君若シ此濁世ノ榮辰ヲ顧ミス
蹤ヲ塵外ノ地ニ晦隱セシトスルアラハ
妾亦富貴名利ノ慾ヲ去リ敢テ追従
シテ君ノ為メニ箕箒ヲ奉セテ三婁々
ノ中情尽リ吐洒スル能ハス請フ夫キニ

諒 哀 奈 也 也

妾嘗テ君ノ書ヲ讀ミ此稿カニ其秀寸ヲ愛
慕セシカ今ヤ心ニ君ヲ尊敬スルヲ猶木神
ニ於ルカ如シ初メ妾ノ未タ君ヲ見サルヤ
唯々君ノ著書ヲ讀ニテ君ヲ想像スルノ
ミナリニカ既ニ君ニ邂逅シテ君ノ人ト為
リヨ孰知セシヨリ欽慕ノ情止ム能ハザルニ

至レリ蓋シ昔ヨリ只其書ノミヲ讀ニテ其
著者ノ如何ヲ孰知スルモノハ幾ニト稀ナリ
妾ノ君ニ於ル其書ヲ讀ニテ其人ニ逢フ
欽慕ノ太々切ナルモ亦宜ナラスヤ然レ氏
君ハ未タ妾ニ邂逅セシヤ否ヤヲ知ラズ
妾独リ君ヲ仰望シテ心口宛稿カニ思ハ
ラリ天胡為スレゾ此秀寸ヲレテ此ノ如ク

孤独ナラシムルヤ天胡為レゾ以俊士ヲ
シテ以ノ如ク快々不豫ノ色アラレムルヤ
願リハ君志ヲ決シテ速カニ切ヲ天下ニ展
ゲヨ是レ妻ノ大ニ希功玉ニ如ナリ然ラズ
ニハコトムリレノ如キ小人ノ為メニ或ハ先
鞭ヲ着ケラレシニ豈ニ亦悔ヒナカラザラ
ンヤ

妾真情ヲ吐露シテ屢書ヲ君ニ呈シ曾
テ婦人ノ行ヒテ顧ミガルモノ、如ク妻ノ敢テ
耻ワル如ナリ而シテ妾聞ク君既ニ佳人ノアル
アリテ情ヲ之レニ寄スルノ日既ニ深シト
然リト虽ヒ妾其故アルヲ以テ敢テ疎意
アルナシ妾思フニ世間偕ニ老クヘキノ男
兒ハ君ヲ捨テ、亦誰カアル君既ニ彼

ノ臆婦アルモ妻ニ於テ変心アルナリ
スルニ臨ニテ江流教行尽ス能ハス萬
諒恕セヨ頓首ハシ

コロシス、病中コルウラバースニ贈ルノ

書

妾君ニ別レテヨリ病ニ卧シ死且サニ且夕

ニ迫ラントス病床思ヘラリ妻當田サニ
書ヲ呈スハキヤ否ヤト共血シ君ノ其昏
ヲ読マスシテ送還セシヲ恐テナリ然
レモ今日ノ妾ハ前日ノ妾ニアラス彼ノ古
哲カ人ノ將サニ死セントス其言ヤ古
ノ言ヲ思ヒ病間ニ兼シテ漸ク一書ヲ作
リ以テ君ニ呈シ強ヒテ前日ノ非ヲ謝セ

ニトス挿モ前日妾ノ君ヲ以テ奸子ト着
做シ絶情セシハ全ク人ノ毒討ニ陥リテ
欺カレタルニ由ル妾慚ク之レヲ三日ノ
前ニ知テ愕然スルト虽モ其之レヲ知
ルノ日既ニ後レタレハ悔ルモ亦及ヒ難ク
シ心中切カニ思ハテリ君別ルニ臨
ニテ日ヲ後悔スルモ及ヒ難レト果シテ

其言ノ如シ然レモ人ノ惡討判然トシテ
スレハ君ハ依約トシテ潔白ニ其汚名ヲ雪ヨリ
ヲ得タリ妾ノ喜ヒ亦謂フハカラス妾元
来一身ヲ君ニ許シ死生亦君ノ命ニ従フ
ヲ以テ妾ノ分ト為セハ設令生キテ此
世ニ夫婦タル能ハサルモ死シテ地下ニ夫
婦タルヲ得バ妾ノ幸甚ト謂フベシ然

レ在願クハ君妾ノ死前ニ一言ヲ無レ以
テ前日ノ失言ヲ宥サハ當ニ幸福ノ思ヲ
為スノミナラス亦樂ニテ死スヘキナリニ病
重リ体吊レ痿トノ切情尽ス能ハス
請フ幸ニ諒察スセヨ

フロレニス

コルワラバース君

摘要

顔色嬌然トシテ玉ヲ欺キ雲影履ルルコリ乱レテ
睽也ニ無レ眼清リ鼻高ク翠十貫ハ新月
ヲ画シ朱唇ハ桃唇ヲ點シ恍トシテ一笑傾
國ノ爪姿ヲ帶ヒ天然ノ容色アリ
凄風蕭々トシテ戶外ニ鳴リ寒雨疎々ト
シテ窓扉ヲ打テ夜色轉々寂實タリ

寒風四羈宮ヲ吹テ旅客盡々回リ斜陽西
山ニ表相ヒテ病鴉將サレ皎ラニトス

北風雪片ヲ吹キ枯木悲声ヲ鳴ララス

詩歌ヲ吟シ嬌鳥春巷ノ梢ニ嘯セルモ宮

ナラス其声ノ情且美ナルハ実ニ天賦ニ

出ヅ

容姿艶ニシテ陰ナラス羊唇ヲ笑ヲ帯ヒテ

言語柔カニ双眸嬌ヲ含ニテ者聽乱レス
実ニ一世ノ美人ナリ

人ノ良智ハ猶木深夜ノ清静トシカ如シ

深夜ニ一物ノ大ニ好ム可ム者アリ即チ熟

眠シテ百事ヲ忘ルハ是ナリ然レバ翌朝

ニ至リテ眠リ醒シ人再ヒ人間ノ事ヲ見聞

ニ勿心テ昨非ヲ憶ヒ起シテ復々之レヲ

怨ムニ至ル眠樂ノ中モ亦安ニゾ醒中ノ

苦ヨ忘ルハニ足ラニヤ

人ハ已レシ鍊磨スルノ具ナリ

垂柳媚ヨ呈レテ百谷娟ヨ争ヒ異

香丹トシテ春風ニ薫シ恰モ仙境ノ

花園ニ入ルカ如シ

街燈独り明ニシテ人行漸ク少レシ狗

吠夜ヲ教テ誰梅午ヲ報ス

人先見ヲ失スレハ即チ義務ヲ忘ル

狗見遠村ニ吠ヘテ宵月山頂ニ懸リ

怪子喬木ニ叫ビテ三鼓寺樓ニ鳴ル



